夕刊
磐城新聞
四月十一日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六十五錢（郵税拾五錢）
廣告料 普通欄金六拾錢 特種欄金九拾錢（五號十二字詰一行一回 場所指定一行壹錢増）
發行所 磐城新聞合資會社
電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

詩南車終刊號短歌評

高木愛二

上

詩南車も今輯を以てこの現實の世界のものでなくなるかと思ふと、愛着の念更に深きものを自分は感ずる然し所々に見える如く、新らしき建設の前の解体であり、犧牲と思はさる所に新たなる希望がある。詩南車三十輯は世の文藝詩の一般的現象と異り、終刊號にして創作品が多い樣だ、一二づゝ拾ふて短評を書く

高久晩霞氏

一般に一人合點の作多し客觀性を持たぬ。例へば、二首目『夜を寒み臥やり堪わたる大なゐの……』これでは地震が『臥り堪えて』ゐるので作者の意圖に反してゐる。五首目『大揺れの地』は何うしても現代では『震源地』と改め、『か起り』は『津浪云々』でなければ直接でない。尙津浪が起り火災相次ぐ修羅場を讀者に想起せしむる感動は極めて稀薄である。『むらさきもの心』等特に以上を説明してゐる其他多々あるも省く。

赤井綠男氏

村會議員になる事ばかり話してる今日も羽織を着て出掛けたり

他の人を歌つてゐるのか、我が事か不明、斯くの如き場合必ず前書が必要である文語國語の混淆も注意せねばならぬ

佐々木顯氏

鉾杉の梢のみ雪さらさらと熊笹に落つる音の靜けき

輯中取り上げられる作だが類型的、感動が沈潛し過ぎてゐる

松村清氏

平易に見えて非常に苦心してゐる作である。殊に四五句に何れも苦心の跡れき然たるものがある

つのりくる憤ろしさこらへつゝくり返しくり返り讀ましめにけり

共感の出來る作『つのりくる憤ろしさ』は斯くの如き感情に適切であらう。反對に『讀ましめにけり』は間が延び過ぎだれてゐる

美崎一郎氏

一連相當のもの。但し日常茶飯事の餘りに、易々と歌ひ捨てられた感なきに非す

冬日和續く日頃や我が庭の薔薇の蕾はふくらみにけり

情景髣髴たるものがある。手法も完全、冬日和續く日頃やと切り、薔薇の蕾はふくらみにけりと結び一首緊密、讀者は一首よりに含み出てゐる春を感じればいけない。尙寒さと暖き、結と開等の對比的作意に注目してよからん

佐川和弘氏

一連何れも厭卷の作。當て斯くの如き作を氏の以前に見ない。茂吉が唱へて止まざる躍動が感じられる。現代感覺が溢る

房總の國遠く來てみちのくにふたむかし餘の年月は經む

四五句の苦心を思ふ。磐城歌人の弊として結句が輕い故に感動がぼやけてしまふ所が『年月は經む』によつて全く据つてゐる。元來この作者は觀照が鋭い。よく實相に觀入し之を單純化し餘韻を言外に殘して讀者に迫るものがある。前詞と合せ讀みて、生前の漁夫の赤銅色のたくましい腕つぶしさへ想ひ起されるではないか磐城にも和弘と一郎の兩氏さへ居れば大いに期待してよい。

磐新歌壇

小山田滋選

近藤かすみ

○夜更けの竹山をゆく戀猫は遠なき止ます佗なりのして

○だみ聲に戀猫遠く野邊をゆく湯づかれのわが心にしみて

小松崎芳子

○巣立ちゆく春淺き日を告らしつる師の訓辭かも忘られなくに

司　郡利雄

○水かれし田の面に下りて子どもらはどぢようをとるとはしやぎゐる晴

早春　戸恒薄蓉

○宵月は雪解の水にさやけしと思ひつゝゆく風呂かへりかな

潮聲　第五十二集

春めきて山線に動き見ぬ　石城
如月や船唄もまだ寒けなり
伐木の肌なまなまし春の雪　秀勝
片言の吾子聲高く雁は内
春雨に三函の温泉の煙かな　鶴歩
むきになつて吠ゆる犬あり月朧　竹羊
麥の芽の綠濃くなり山霞む　花里
阿武隈の嶺は雪なり梅の花　敏日子
[illegible]据えて網捌きけり春の川　眞砂常
春大雪杉の木立の徊かな　欽一

追章

三月や明け暮れ海の音ばかり　松堂

拈華微笑

◇水温む。けふの春景色に松ケ岡新川端の人出
◇櫻の蕾處女の乳くびから漸く爛熟した大年增の乳くびへ
◇天狗の奥許しでもとつたか、昨日の武道で澤渡山村軍再た捷つ
◇忠魂祭の委員連慰勞會で生きた雄魂毅魄を祀る
◇暫らくデーが杜切れたと思つてたら今度は乳幼兒愛護週間

青春

えいさぶらう

生きてゐるせめてものサラリーである春！
コチコチした感情と行ぎ詰つた生活をとろかしながら
ルンペンさへュケーションのスターまがひに
一人微笑んでゐる
厭世にひきづられた感傷をぶちぬけて
春に感謝の[illegible]動を敎へられた。

社會の今日

4月12日
△武田信玄卒す（天正元）△東京城に電信機を設く（明治四）△度量衡をメートル法に改正（大正一〇）△七年度一般會計實行豫算閣議決定△支那側の不誠意により停戰會議停頓△第十六回國際勞働會議ジュネーヴで開會（昭和七）

○

潮來船橋をくぐれはのつ廣く、霞む田圃に人散らばれり　四賀光子

潮干潟はるばる見ゆれ散りぢりに、貝掘る人は小さかりけり　大沼たつ

青い灯（三）

八幡秋月

引寄せられまへと自分の手を耕一の胸に支へ柱にしてあや子は澄み切つた眸で

『いけないわ』

『――――』

『いけません、離して…』

『――――』

『そんな事、いけないわ』

あや子は強く頭を振つた

耕一の手は益々強く締まつて引寄せられまへとしながらもあや子の顏と耕一の顏はせまつて來た

耕一の泪にぬれた瞳、哀願の色ある瞳、泪の跡歴然としたホヽ、それらのものが大きく、近くあや子の眸に映つて來た

――哀れな男！――

あや子の腦裏に斯んな事がひらめいた

――許そうか？――

あや子の感情は俄かに軟化した

――もう、幾ら追かけても此の男の手は妾には屆かなくなるのだ、是れ程慕つてる此の男に一度だけは許すべきかも知れない、義理として一度だけは許して遣らなければならないかも知れない――

あや子の支への手は急にゆるんだ

と……

噫！金故に許さねばならぬ唇

金！呪はしい金よ！金の世の中よ！

耕一の唇を受けたあや子の目には淋しい、そして熱い泪が一杯に浮かんで來た

×

晝の酒場。

まして午前中の酒場等は夜の酒場等とは、まるで他人の樣に其の風貌を異にしてゐるのだ

夜になれば美々しく裝ふシャンデリアも晝は臆面もなく汚き正体をサラケ出してなんと無樣子に天井からヅルシ下つてゐるし。

背の高い何と言ふか名の知らない鉢植の木は大變にホコリにまみれてゐるし

女給達は白粉のはげた顏に寢不足らしい色をうかべてゐるし

だから夜の酒場きり知らない浮氣な男達が初めて晝の酒場を覗いたりすると隨分興ざめるものなのだ

講談　お蘭陀お蝶（297）

渡邊默禪作　布施長春畫

お蝶は無難に千葉の道場から引き揚げた、その後に德と長とが隨いてすた〳〵と本所の住居へ急いだ

兩國へ出た頃はちらほらとあかりがついて、見世物小屋が客を吐出した跡を取片づけてゐた、橋へかゝらうとしてかるわざの木戸前を通ると前方から忙しい足取で歩いて來た女がある。摺違ひさまお蝶の姿を見て

『おやッ』

と叫ぶ下から物狂はしく飛着いて、いきなり力任せにだきしめた

『あら、姐さん』

お蝶は喫驚した、それはお菊である。二人は少頃口がきけなかつた、泣くのやら笑ふのやら我も泪、彼も泪

『蝶ちやん、よくまア無事で戻つて來てお呉れだねえ私ア彼の書置を見て喫驚して了つてね、直と跡から出掛けようと思つて見たんだが豫ての頼みもあるし、お前の邪魔をするやうでも何だから、まア仕方がない成行に任せようと度胸は据えたもの氣がもめて〳〵溜らないでせう、其處へ此の二人が狐が落ちたやうな顏をして、茫然と戻つて來たから、いきなり怒鳴りつけてやつて、さア早く行つて見届けて呉れ、せめては死骸なりとも立派に引取つて來いと吩咐けて、お玉が池へ出した跡で、婆やと二人で嫌な念佛を唱へてゐたんだが、如何もむなさわぎがして沈着いてゐられないもんだから、エ、儘の皮、思ひ切つて暴れ込んで遣らうと矢竹になつて、とうとう家を飛出し來たやうな譯さ、それが無事で逢はれやうとは眞箇に夢のやうな話しだねえ甚麼したつてえのさ、一体』

『はい實に姐さんには濟みません、こんな御心配をお懸け申して……私も最う所詮此の世では逢はれまいと思つたんですが、未だ命數が盡きないと見えまして折格殘したかたみも無駄になつちまひました、併し姐さん喜んでください一念は岩に立つ天下、美事仇を取つて來ましたから……』

お蝶の顏ははれがましく輝いて、生氣躍々さながら凱旋の武士の如くであつた

『えつ、意趣ばらしが能きたつ！えらいつ流石は蝶ちやん、豪氣なもんだ、おい二人のお野郎さん些と見習つてあやかるやうに、髮の毛でも貰つて煎じてお上りよ』

お菊は雀躍した

『エへゝ、器量がすつかり下つちまつた』

德は天窓を掻いて

『なアにね、それつてえのも』

何か言はうとするのをお菊は遮ぎつて

『ちよいと、こゝで立話しといふのも氣が利かないぢやないか、こんなお芽出たい話しを只で聞いたら罰が當る、恰と時分時だ、萬八あたりでおごるとしようかね』

『ヨイショ、〆め〳〵、おい長公、大姐の散財だとよ御苦勞序に飲んでやらうぢやねえか』

『あらあんなことを吐してけつかるよ、向ふ不見の蛙だけに押が強い、さあ蝶ちやんお出て』

柳橋の萬八樓で祝宴が開かれた

お蝶はその席上で委細の模樣を語つた

既に光子と逸平とが自殺して謝罪すべく餘儀なくされた時、お蝶は千葉に向つて、今度はあべこべに命乞をした。その言分は實に美しいけたかいものであつた

『お二人さまが惡るかつたと心からお悔みなされたなら、私の趣意が立つものでございますから今までの怨をさらりと水に流して何も彼も忘れて了ひます、就ては情願、御勘辨遊して御二人さまを助命して下さいますやう只一つの願ひは之を御縁に女弟子として劒道の一手なりとも御指南下さるならば冥加に存じます』

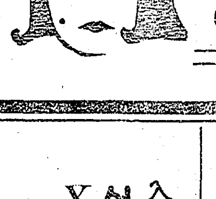
有給社員招聘

經驗ノ有無ヲ問ハズ奮闘ノ士ヲ望ム
在郷軍人退職官吏優遇
（初任者指導ス）
希望者ハ履歷書急送アレ
郡山市堤下三二番地
富國徵兵保險相互會社監督部
徵兵保險ハ相互ニ限ル本邦唯一ノ相互保險

研美院

只今迄三越金澤支店美容部主任として務めて居りましたが今度左記の場所に開業致しました。當院獨特の斬新なる技術と優秀なる器具並に衞生設備の完全は皆々樣の御期待に副ふことゝ存じます。宜しく御引立を賜り度く御願ひ申上ます。
アメリカ式美顏術　和洋結髮
シャンプー　毛染
マニキュアー　御婚禮化粧着附
平町田町五番地
研美院　高橋輝子
洋髮主任　門根花

cafe



喫茶と食事　昇香
聚樂館南隣電話四六番

北海屋のもち飴

磐城名物……
糯米製
北海屋のもち飴
進物用　ボール函入（小函）二十錢（大函）三十錢
同　罐入　五十錢
同　壺　一圓
本品ハ消化吸收頗ルヨク病人、産婦、老人、幼兒ニ好適ナル食物タルハ勿論ピクニック、運動、旅行等ニテ疲勞ノ際之ヲ食スレバ直チニ元氣回復スル事妙ナリ。
北海屋製菓部
平町字二丁目　電話三八八番

江戸前

當店に於て自慢の
大蒲燒
割烹
壽司
開業以來
特に『都壽司』は江戸一流の職人を迎へて食通の皆樣方に御賞讃を頂きお蔭樣にて大繁昌をいたして居ります。
都壽司は魚榮と御思召して……御ひゐき下さる樣御願申上げます。
田町　魚榮
電話四二四番

酒場戰線異狀あり

歐風料理開店お知らせ
A 新進司厨士腕試めし
B 33年カフェー界尖鋭トップを切る、人氣溢るる意氣と熱に燃ゆる店
C 女給滿腔なるサービスの御試めし…
平三丁目南川岸通り
カフエー太陽

上田醫院

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平　南町
上田醫院
（電話一二九）
病室完備

新製品發賣!!!

コーヒー通待望のコーヒー來る……!
ジヤバ
モツカ
グアテマラ
本場コーヒー三種配合挽立
……1/4封カン入三五錢
1/2封カン入七十錢
味覺滿點
香味本位の本場銘茶を召上りませ……
平三丁目
電三九六番
大勝園

水温む

春景色に誘はれて公園新川端の人出

櫻の蕾めつきり膨む

陰鬱な雨も名殘り無く晴れて吹く風も温い今十一日は櫻も一段と膨み初め新川端から松ヶ岡公園は春の和かな氣分に誘はれた散策の人達で賑つたが今年も例年通り花見を當て込む諸會合が行はれるらしく目下判明して居る分左の如し

(十五日)町村長會總會(十七日)縣社例祭(十八日)縣下牛乳協會總會(十九日)平署管內消防檢閱(二十日)優良納税者表彰式(二十二日)縣聯合青年團總會(二十三日)女子同上(二十四五)兩日安倍季雄氏講演會

個人賞―一等知事賞佐藤宏(湯本) 二等仙北茂太郎(內郷) 三等高田平八郎(平) 四等村山長一(好間) 五等富澤政記(平)

忠魂祭委員慰勞會 昨十日午後五時から住吉屋本店で開いた

縣下の各町村長 葉櫻の平へ參集

聯合總會開催計劃

縣下町村長聯合總會は葉櫻の平町で開催したき旨石城支會へ申込んで來たので支會では十五日午前十時から平町會議事堂に總會を開き協議する事となつた

六七丁目青年總會 平町六七丁目青年分團では昨十日午後七時から園長諸橋久四郎氏宅で總會を開催今月から區費徵收事務を取扱ふ事に決定した

公園物價統制 平町では十三日頃土木委員會を開き松ヶ岡公園內賣店の物價統制其他を協議する

強豪澤渡軍再勝

昨忠魂祭の武道戰績

武德會平分區主催の郡下劍道、銃劍術、弓道大會は昨十日松ヶ岡公園で開催する筈であつたが雨天の爲め會場を平署に變更し午前九時から開いたが各部參加選手二百五十名に達し息づまる接戰を演じた結果劍道は澤渡が再勝、弓道は平が優勝し午後五時盛會裡に閉會した

△劍道 審判小川文章、鈴木忠正、藤井一、根本正行、佐藤怒、藥谷久太郎、優勝旗戰―一等(澤渡)佐藤傳一、三瓶理喜男、折笠安省 二等(湯本) 三等(好間) 四等(草野) 五等(平) 有段個人試合―一等和田弘尚(平) 二等館內安治(平) 三等鈴木至郎(好間) 各初段、段外同―一等田仲濟(平商) 二等遠岡富安(湯本) 三等根本行孝(同) 四等小林義郎(好間) 五等三瓶理喜男(澤渡) 六等新妻(好間) 鈴木朝光(內郷) 根本四郎(大浦)

△銃劍術 一等荻野光忠(永戶)

△弓道 審判廣木榮之進、中村梅三郎、梅津松吉(各平)木村德三郎(湯本) 優勝旗爭奪競射―一等平(鈴木勝明、高田平八郎、高澤壽廣) 次點湯本(佐藤宏、佐藤操、關根確也)

國旗揭揚統一

郡內小學校では今學期より次の如く從來區々であつた國旗揭揚を統一實施する事になつた

1休日の祝祭日 2一月一日 3官國幣社及鎭守例祭日 4其他國家的祝祭日、(皇后陛下御誕生日、新年祭神宮月次祭) 5國家的記念日(陸海軍、敎育勅語下賜、戊申證書國民精神作興詔書御下賜) 6學校に於ける大行事(入學卒業式、創立記念其他) 7國家臨時慶弔 揭揚法、氣を付け注目、敬禮、國歌合唱、宮城及伊勢大廟遙拜

湯本上水道竣功式日取決定近づく

打合の爲町長ら上京

今中旬の櫻花季をトして擧行の豫定であつた湯本町上水道竣功式は其筋の檢査未了の爲少しく延期され開催日取りに就き當局と折衝中であつたが主務省との技師派遣方打合及縣當局とも手筈を定める爲石川町長は鯨岡(新)町議と共に昨十日上京したので之によつて愈々日取りが決定されるものと觀られてゐる

地方に範たる川部養蠶實行組合

取締所から表彰方申請

平蠶業取締支所では縣からの通牒に基き管內に於ける優良養蠶實行組合の實態調査をなした結果模範的の定評高い川部組合の表彰方を申請したが同組合は澤渡字鹿野に事務所を置き鹿野、金山、宿各部落の同業者を以て大正六年四月川部蠶業組合として創立以來著々好成績を擧げ昭和五年中大日本蠶糸會より表彰された事あり翌年組合法公布に伴ひ川部養蠶實行組合と改稱今日に至つたもので現在組合員三十五名基本金三千圓を有し創立以來楢田久太郎楢田寅之助楢田馬之助、鈴木長治、芳賀義彥の歷代組合長指導の下に現在七名の理事を置き組合員桑園二十六町步(內收穫に達せざるもの二町步)養蠶戶數百七十、地區內桑園四十五町步、養蠶戶數九十戶、人口四百五十人の爲蠶種貯藏庫、催靑所、倉庫各一棟、購入物品配給所、稚蠶桑園三段五畝、桑園用噴霧器、蠶室用同、煉炭製造器七寸型各二臺を備へ繭、米、麥、大小豆、蔬菜、薪炭等を生產管理し桑苗は各自家用として昨年は五千束を自給し尚自給肥料の增產に資すべく一昨年堆肥製造講習會開催し昨年は十五萬貫を製造したと

公民生皆無

大努力で募集續行

平町公民學校の始業式は去る一日に行ふ豫定だつたが新入生が一名もないので平町から平商を受驗した高等二年生十五名中篩ひ落された十二名を始め卒業生に勸誘の手紙ビラを配布募集する事になつた

鳴り物入りで乳幼兒愛護宣傳

週間中の計劃決定

來月二日から一週間の乳幼兒愛護週間中平署では縣の方針に基き

△パンフレット、姙婦、產婦及乳幼兒保育に關する印刷物配布、ポスター揭示△乳幼兒健康診斷、審査會、講話會、講習會、展覽會、母の會、座談會△汽車、自動車、幼稚園學校、託兒所、敎會、寺院、劇場、活動常設館等で宣傳△有鉛白粉の檢査△當日配達の牛乳瓶に宣傳マークを貼布△貧困姙產婦及乳兒保護△育兒上著しき弊害ありと認むべき地方的風習の改善の各種施設により大に趣旨の宣傳に努めると

磐中人國記 (六)

赤井嶽男記

第十回生の卷 A

◇荒川中尉を偲ぶ 劈頭故人を語るも變であるが此回卒業生中種々なる意味に於て世人の印象深い荒川精一中尉(平町)を偲ぶ事を許され度い。氏に就ては悲痛な自刄直後一昨六年五月二十六日の本紙上に書いた記事を再錄する事を以て便宜とする

◇記者の追憶斷片 ―最近滿天下の耳目を聳動した井上藏相邸爆破事件の黑幕として其筋の取調べを受けて歸宅引籠り中自殺を企てた平町出身の豫備陸軍步兵中尉荒川精一氏は竟に再び起つ事が出來ず二十五日午前三時厄歲の四十二を一期とし溘焉として鬼籍に上つた。

○

或る意味に於て毛色の變つた軍人としてずつと以前から名前は聞き知つてゐたが氏とヂカに相識つたのは昭和三年の二月、木村代議士が最初に打つて出た總選擧の時であつた、當時東京から應援に來た氏は何ヶ所かの演說會で滿蒙政策を中心としての長廣舌を揮つた

○

二月十三日それは投票日迄剩す處僅かに一週間、石城の比佐、木村、双相の松本、氏家が入り亂れて濱通りの逐鹿戰はここを必死と最後の五分間に凄まじい馬力をかけて在所に揭げらるる言論戰の烽火は一種悲壯の情景を展開してゐた。

この日何處かの何席かを濟まして來た荒川氏は玉川の小學校に於て得意の滿蒙政策に鮨詰めの聽衆をして恍として醉はしめてゐた

○

最初から元氣良く大聲叱呼して聲の節約には何れかと云へば巧みでなかつたらしい豪快な氏は前後二時間近い長廣舌に持つて來て前々の疲れもあり、いたく咽喉を害して音聲も啞れフラスコの水も一二回は替られたらしかつたが其れでも後から後から取つて置きの材料が出て來て容易に結論には入らなかつた。つまり氏には時間が許せば際限なく語り續ける濫蓄がおつたのである。

この日木村派の演說會は磐崎、湯本、宮、綴、玉川等の數ヶ所に催され各辯士は甲から乙へ、乙から丙へ自動車を飛ばして何れも二三ヶ所の會場を掛け持ちした。

○

二月十九日、それは忘れもせぬ投票日の前夜である この日平劇場を最終として木村候補の演說會を引き上げた遊說隊の關係者が千秋樂のホッとした氣分で某所に骨休めの宴を開いた、其の席には荒川氏もゐて隣り合つた記者と盛に酒盃を鬪はした。

自動車協會石城支部總會

事故防止其他指示協議

自動車協會石城支部總會は今十一日午後一時から平署會議室で開催左記指示及協議あつた

(指示)一、自動車營業者ノ連絡協調 二、鐵道踏切事故防止 三、雨雪泥濘の際泥除取付勵行 四、無免許運轉注意 五、自動車車庫ノ構造完成 六、協定運賃確守

(協議)一、昭和八年度豫算 二、縣總會ニ建議事項提出

。。。。衞生事務研究 平署管內町村吏員の衞生事務研究會は十五日午前十時から署會議室で開催夏季中衞生に關する件其他を研究協議すると

創立廿有二年

第二校で記念講演と遠足

平第二小學校は今十一日が創立二十二年に當るので津田校長の記念講話後二年以上の遠足を催した、之れ迄の卒業生三千六百名に及び幾多の良妻賢母を生み出した敎育の殿堂として在校生徒千七百餘名、敎員三十二名の大平第二校も明治四十五年四月十一日創立當時は生徒六百名、敎員十五名に過ぎず今から顧みると眞に隔世の感がある

第三校藝園

平第三小學校では林訓導外職員生徒の勞力で庭園にチューリップ型のコンクリート池を造り附近にアルメリヤ、サツキを植ゑ、鑑賞園にはダリヤ、チューリップ、百合、グラヂオラス、菊の畑、苗圃の外麥畑を耕作し毎日各組で分擔手入れに當つてゐる

。。。。鮫川垣委員會 十四日午後一時から平各種團体事務所に開き起工式其他の打合をなす

小作料請求

玉川安立寺の紛紜 玉川村安立寺が同村中野喜傳を相手取り漆畑辯護士を訴訟代理人として平區に提起した小作料七年分玄米六石七斗三升二石を請求した事件の口頭辯論は今十一日午前十時から荒井判事係り被告側に松野尾辯護士立會ひ開廷されたが被告が證人を申請し來月九日第二回を續行する事となつた

米突法宣傳

今日の記念行事

平町役場では今十一日のメートル法實施記念日に當り各校に宣傳ビラを配布し第三校でも左の事項を印刷し生徒に配布した、我國固有の尺貫度量衡は官廳工場では九年六月、一般は十九年六月迄で其れ以後は全然使用せぬが大正十年四月改正以來生徒は完全に改つたが社會家庭には未普及である

長サ四粁(一里)鎌田橋百米、第三から赤井嶽迄、豐間燈臺迄各十粁、桝目コツプ一杯約二百五十立方センチメートル、四杯で一立、目方お茶を入れた茶碗約百グラム、小供の辨當約三百グラム、廣サ一ヘクタール約一町、一アール約一畝、第三校庭は約六十三アール

六丁目青年團 お花見

平町六丁目青年分團では十八日午後五時から常盤亭前で花見宴を開く

あか掻いの老漁夫船に潰されて死亡

昨日四倉海岸の椿事

四倉町菅波末吉氏アグリ船乘込員飛田粂吉(五六)は昨十日午前十時頃陸上げ場に於て傳馬船のあかを拂ふため船体を立てた際誤つて其の下敷となつて胸部を打ち人事不省に陷り應急手當を施したが蘇生するに至らなかつた、同人は實直な老漁夫で一般の信用厚く突然の變死を氣の毒がられてゐる

平署警官異動

今十一日付を以て左記の通り異動が行はれた

宮請願 井上清 小名濱古港へ
古港 金田寬 湯本三函へ
三函 佐藤雅之助 宮請願へ

。。。。三陸義捐金 金三圓―磐城炭礦從業員大賀梢吉(十一日平署へ持參)

。。。。磐中高女進學 磐中今春卒業國井正武、磐女杉下薫子の兩名は東京武藏野音樂學校へ合格進學した

。。。。汲取請負入札 平三學校役場商業四ヶ所の八年度糞尿汲取り請負入札は十五日午前十時から町會議事堂で行ふ

佐藤富吉氏 前七十七銀行平支店次長佐藤富吉氏は過般來病氣の爲高久病院に入院加療中であつたが藥石効無く一昨九日午後長逝今十一日午後一時より女學校前自宅に於て告別式を執行し追て鄕里宮城縣で本葬を執行すると

。。ヂフ 小名濱町定西豐田備中(八)は昨十日ヂフテリアと決定療養中

。。檢束 夏井村農箱崎保(二九)は昨十日午後九時頃平町田町料理店のんきで泥醉暴行を働き平署に檢束され今朝酒の醒めた上嚴重說諭放還さる

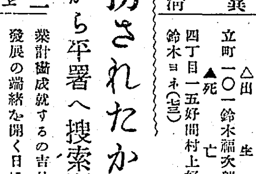
平町慶弔錄

△出生 立町一〇一鈴木福次郎四男久雄
▲死亡 四丁目一五好間村上好間忽滑五〇鈴木ヨネ(七三)

娘十七誘拐されたか

茨城から平署へ搜索願

茨城縣東茨城郡笠間町一二七九市太郎養女田中トモヱ(一七)は四日午後四時頃無斷家出したが誘拐されたらしいと養父から今十一日平署に搜索方を願ひ出た



舊三月十七日
水曜 戊甲 友引 定 箕宿
新四月十二日

館判定廳 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神宮館

▲一白の人 刻々と努力を增し企業計畫成就するの吉日▲二黑の人 發展の端緒を開く日にて名弘開店建築皆吉▲三碧の人 辛勞のかひ薄けれども後日の爲と勵むべし▲四綠の人 一身一家の平康な失はんとする日なり注意▲五黃の人 意氣すこぶる盛にして希望も亦達せらるゝ吉日▲六白の人 がん前の利慾に馳せず永遠の成功を期する日▲七赤の人 思はざる方より災の入り込まんとする凶日▲八白の人 是より陸運に向はんとする日專心業務勵め▲九紫の人 心迷ひの爲めに活力を失ひ成功覺束なき日

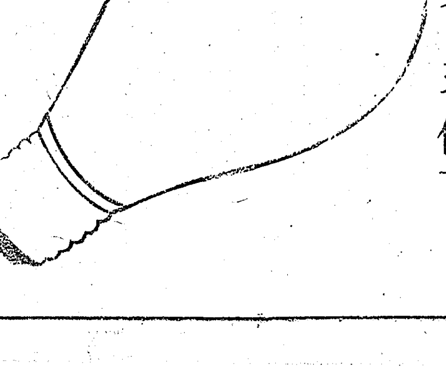
吉田眼科病院

謹啓母ヨネ儀病氣の處療養不相叶本日午前六時死去致し候間此段謹告候也
追而葬送の儀は四月十三日午後二時自宅出棺平町九品寺に於て佛式を以て埋葬相營み申候
昭和八年四月十日
平町字四丁目
男 鈴木長三郎
好間村忽滑 仝 郁子

貸切ノ御用命ハ
イツデモ眞先(マツサキ)ニ(松崎(マツサキ)ニ)
三九二(ミクニ)タクシーヘ
(デンワ、ミクニ)

學生靴―大賣出し
斯界のナンバワン大塚の靴
女學校…指定靴 五、五〇
靴靴靴 ミスケバビヤダ 景品付のサービス
中等校…自製靴
同 ボックス革 短靴 五、〇〇ヨリ 編上靴 六、〇〇ヨリ
小學生…通學靴
大量製作 大塚製靴部 運動具部
平・田町 電話七十七番

十燭以下十二錢…五十燭マデ十八錢
御電話ガアレバ屆ケマス。
平三 大谷時計病院 眼鏡科
電話十九番



ガス入電球ノ値下ゲニ次グ又値下

名湯のお知らせ
神經痛。リウマチス。婦人病。其他此ノ名湯ニ一週間以上入浴スレバ全治スルト云フ其ノ効無二ノ礦泉デス、四倉驛ヨリ十町自動車ノ便アリマス。
眺望ノヨイ
宿泊料一泊壹圓(三食付)
礦泉旅館 寅の湯
四倉町新町戶ノ內九